

初の無担保小口金融

大阪の会社 元北大教授後押し

発毛施術サービスの毛髪クリニックリーフ21（大阪）系の信販会社イデアカード（同）は8日、世界100カ国以上で普及する貧困層向けの無担保小口金融「マイクロファイナンス」事業を始めたことを明らかにした。2006年にノーベル平和賞を受賞したバング

ラデシユのムハマド・ユヌス・グラミン銀行総裁が創設した手法で、国内では初の試みという。国内での普及を訴える元北大教授の後押しで実現した。イデアカードは毛髪クリニックリーフ21の岡村勝正社長が04年に設立した。岡村社長は、菅正広・元北大公共政

策大学院教授（現在は鉄道建設・運輸施設整備支援機構理事）が著書「マイクロファイナンスのすすめ」（東洋経済新報社）の中で掲げた「日本でも貧困層向け融資は有効」との持論に共鳴。菅さんのアドバイスを受けながら事業化の道を探ってきた。

6月にイデアカードの貸金業登録を行い、現在は派遣労働者の支援団体などを通じ、貧困から抜け出そうと起業を考えている借り手を探している。グラミン銀行のやり方に倣い、当初は融資対象を女性に限定。通常の金融機関では融資を受けにくい低所得層

に対しても、綿密な事業計画の提出、融資後の継続的なカウンセリング実施などを条件として300万円を上限に無担保で貸し出す。金利は年10～12%に抑えるよう想定している。

マイクロファイナンスは、ユヌス氏が33年前に始めた手法で、融資を受けた女性らが工芸品生産など小規模事業で成功している。ユヌス氏は28日に北大の招きで来札し、29日に名誉博士号を授与される予定。